

バスケットボールのゲームにおけるターンオーバーが勝敗に及ぼす影響

The effects of turnover to the basketball games' results

1K09B114-3

指導教員 主査 倉石平 先生

鈴木 直生

副査 堀野博幸 先生

【緒言】

ディフェンスはオフェンスと違い外的要因に左右されることは少なく、安定した実力を発揮できると考えられる。このことから、安定して勝利を得るためにはディフェンスを成功させ、自チームのディフェンスによる攻撃回数を増やし、さらにはイージーショットを多く獲得することが重要ではないかと考えた。これにより、ターンオーバーを犯した数が勝敗を左右する重要な要素なのではないかと考えたため、本研究が意義のあるものと考え、研究するに至った。

【目的】

本研究では、ターンオーバーがゲームの勝敗に及ぼす影響について以下のことを明らかにすることを目的とする。

- ・1試合に犯す1チームのターンオーバー数の多さと勝敗の関係性を調査することで、ターンオーバーが試合に及ぼす影響を明らかにする。
- ・ターンオーバー後のオフェンス形態とシュート成功率の関係性を調査し、自チームのディフェンスがオフェンスに与える影響を明らかにする。

【方法】

映像分析ソフトダートフィッシュ・ソフトウェアを用いて、JBL2011-2012シーズン各試合のビデオから各イベントにタグgingを行い、各イベントを集計、調査した。

【結果】

- ①ターンオーバーと勝敗の関係性について
勝ちチームの方が負けチームと比較して1試合あたりの平均ターンオーバー数は少ないということが明らかとなった。勝ちチームの61%は負けチームより1試合に犯すターンオーバー数は少なかった。しかし、残りの39%の試合では勝ちチームは負けチームよりもターンオーバー数が同じか、または多くなった。
- ②ターンオーバーが及ぼすオフェンス形態への影響
ターンオーバー発生後のIn play状態で行われたオフェンスは通常オフェンスと比較し、数的有利なオフェンスを行うことができる可能性が高いということが明らかとなった。
- ③ターンオーバーの種類と発生要因・位置
ターンオーバー要因の中でもっとも多かったものはパスミスであり、以降多い順に、ドリブルミス、キープミス、キャッチミス、ショット動作中のキープミスとなった。JBLにおいてもパスミスが多いことが明らかとなった。ドリブルミス以外はローポスト、ミッドポスト、トップの位置にミスが発生する傾向が高いことが明らかとなった。
- ④レギュラーシーズン順位とターンオーバーの関係について

チームが1試合あたりで犯したターンオーバー平均数のみでは、ターンオーバーが順位に強い影響を及ぼすとは言えなかった。しかし、ターンオーバー後In play状態で行われたオフェンスが数的有利な状況に持ち込んだ割合が多いチームはリーグでも上位に位置している傾向が明らかとなった。

【考察】

- ①安定して勝利を得るためには可能な限りオフェンスをシュートで完結させ、不用意なターンオーバーの回数を減らすことが必要だと考えられる。勝ちチームは負けチームよりオフェンスをシュートで完結することが多かったと考えられる。逆に負けチームは相手のディフェンスに自チームが表現したいオフェンスが行えなかったとも考えられる。
- ②ターンオーバーは予期せぬミスであり、それゆえにターンオーバー発生直後はディフェンスの準備を整え、オフェンスに対応することが困難であると考えられる。さらに、オフェンス3段階別で見たシュート成功率は、すべての項目においてターンオーバー発生後のIn play状態で行われたオフェンスの方が優れており、ディフェンスを成功させ、ターンオーバーを誘発させたことでオフェンス側が「流れ」や「リズム」を得て、シュート成功率も全体と比較して向上したのではないかと考えられる。
- ③ターンオーバー発生位置の結果から、ゴール近辺のポストエリアにボールを確実に繋げてゴールに近い位置でのシュートに持ち込むこと、またサイドからポストやトップを中継してボールを逆サイドへ展開する力が不足しているのではないかと考えられる。
- ④最下位のチームは効率的なオフェンスに繋がれなかったと考えられる。また、ターンオーバー後In play状態で行われたオフェンスを数的有利な状況に持ち込む割合の多寡が、レギュラーシーズン順位に関係していると考えられる。これらのことから、安定して勝利を得るためにはディフェンスを成功させ、自チームの攻撃回数を増やし、さらにはイージーショットを多く獲得することが重要であると考えられる。

【結論】

ターンオーバー後In play状態で行われたオフェンスを数的有利な状況に持ち込み、確率の高いオフェンスを行えるかどうか勝敗に影響を及ぼすことが明らかとなった。